

ヤエガキ酒造株式会社

350有余年の伝統を引継ぎ、社会から信頼され、有益な企業であり続けたい

代表銘柄の日本酒「八重墻」をはじめとする醸造酒類、連続式蒸留焼酎「甲(かぶと)」および単式蒸留焼酎「あらき」、原料用アルコール、スピリッツの蒸留酒類、リキュール等の混成酒類、「飲む紫黒米玄米」をはじめとする発酵食品「やえつむぎ」、自動発酵機を主とする食品機械の製造・販売を行っている。

| | |
|------|--|
| 商号 | ヤエガキ酒造株式会社 |
| 本社 | 〒679-4298 兵庫県姫路市林田町六九谷681 |
| 創業年 | 1666年 |
| 設立年 | 1962年 |
| 資本金 | 3,000万円 |
| 従業員数 | 55名 |
| 事業内容 | 酒類事業(清酒、焼酎、リキュール、スピリッツ他)、食品事業(発酵食品)、食品機械事業 |



社名看板製作(昭和38年)



長谷川合資会社時代の「八重墻」ラベル



蓋麴(ふたこうじ)法による丹念な麴づくり



YAEGAKI Corporation of USA



純米大吟醸 黒乃無 純米大吟醸 青乃無

姫路市・都市景観重要建築物に指定されている長谷川家

次なる革新への挑戦

八重墻の歴史は、藤原鎌足33代目の子孫である長谷川栄雅を始祖として、1666年(寛文6年)播磨国林田(現 姫路市林田町)で始めた酒造りを創業とする。江戸時代から戦後までは酒造り一筋で歩んできた。その後、発酵技術を生かし、焼酎の生産、醸造用機械の製作に着手、1967年にはヤエガキ醸造機械株式会社を設立。天然色素事業にも乗り出した。1979年にヤエガキ醗酵技研株式会社、1988年には全体を統括管理(総務・経理・電算部門)するヤエガキジャパン株式会社を設立した。本物の日本酒造りの姿勢を頑なに守りながら、かつ伝統に甘んじることなく、新たな事業領域に果敢に挑戦していく。「人のやらないことをやる」という精神が今日のヤエガキグループの礎となっている。

大衆から分衆、そして小衆へ

高度経済成長期に入り、全国の蔵元の多くは大量生産大量販売の方向へ舵を切り始めたが、八重墻は手造りによる純米清酒の製造販売の大方針転換をとった。当時は級別制度があり、純米清酒もまだ知られていないころであったが、本物の日本酒が将来必ず支持され残るとの信念で「量より質」を大切にすることを選択した。今は純米大吟醸や純米清酒が広く飲まれているが、当時は普通酒が主流であり「広く飲まれるより深く味わわりたい」と、一升盛の蓋麴(ふたこうじ)法による手造りの個性豊かな純米酒造りをしていたことで地方の文化を映し出す酒蔵として存在意義を世に問うことができた。「酒は心で造るもの」が蔵人の信念となった。

時代の垣根を越えて

海外市場への挑戦として1980年代初めに純米清酒の海外輸出に取組、現在では和食人気の高まりを受けて、世界各国の日本食レストランで日本酒「八重墻」が愛飲されている。1999年には海外進出を本格化し、米国ロサンゼルスにYAEGAKI Corporation of USAを設立。現地生産のSAKEと共に、日本から米国に輸出した日本酒純米大吟醸「無」を中心に、在米の日系人だけでなく、現地系アメリカ人にも愛飲され販路を拡大している。IWSCなど数々の国際酒類コンクールで認められた日本酒「八重墻」を通じ、グローバル、デジタル化へと進む国際社会へ、日本独自の素晴らしい酒文化を播磨から世界へ発信し続けたい。

